

令和7年度 社会福祉法人 協愛福祉会 施設自己評価表

(保育理念)
Happy+Natural
Happy+challenge

(保育目標)
げんきな子 やさしい子
がんばる子 ゆたかな子

A：よくできている B：わりとできている
C：一部改善が必要 D：改善しなければならない

	内容	前年評価	今年評価	現状・課題
保育目標について	(1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している	B	B	・理念や4本柱について法人理念を理解し保育に携わることが出来た。 ・世田谷区の保育の質ガイドラインが改正され、子どもたち一人ひとりの人権について職員全体で改めて話し合うことができた。
	(2)子ども一人一人の主体性を大切に保育をしている	B	A	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している	B	A	
保育について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている	B	A	・制作活動に限らず、自由遊びにおいても子どもたちの興味・関心に着目し、身近な素材を活用しながら、遊びの広がりや発展につなげていきたい。 ・個々の発達や成長に応じた保育計画を立案し、それに基づいた保育を実施することができた。 ・保育室の環境については、その時々の子どもの興味に応じて柔軟に変化させ、継続的に見直していく環境構成を目指したい。 ・今年度は、0歳児クラスにおいても子どもたちの発達に応じて1・2歳児との異年齢保育を実施し、さまざまな事柄への興味・関心の広がりが見られた。来年度に向けては、異年齢保育の取り入れ方について検討していく。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている	B	A	
	(3)素材・用具を適切に使用している	B	B	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している	B	B	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている	B	B	
	(6)1日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよい	B	A	
食育について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	B	A	・今年度給食の職員も子どもたちと一緒にSDGsを意識して、野菜の再栽培(リボンベジタブル)を年間を通して取り組んだ。 ・子どもたちが興味を示していることから年齢に合わせた食育にチャレンジすることができた。 ・入園後の離乳食の進め方についてなど保護者との連携を大切にし対応した。
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている	C	B	
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている	A	A	
役員研修分担任	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている	B	B	・世田谷区保育の質のガイドラインが改正されたことで、保育の振り返りをおこない、職員全体で共有し責任を持って保育業務に携わった。 ・園内外の研修は、計画的に実行することができた。
	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている	B	B	
	(3)園内外の研修は計画を立て実行している	B	A	

保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けている	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報発信を、KIDSPLANETおよびドキュメンテーションを通して実施し、子どもたちの成長の共有と保護者との信頼関係の構築を図った。 ・園行事等に関する保護者の要望を把握し、懇談会等を実施することで、保護者との親睦の深化に努めた。 ・保護者の個人情報については、個人情報保護法を遵守し、適切な管理のもとで取り扱うとともに、秘密の保持に努めた。
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている	B	B	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている	B	B	
	(4)園だより、ドキュメンテーション、きっぷノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している	B	A	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している	B	A	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している	B	B	

開かれた 保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ			
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している			

子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている	D	B	<p>今年度は、散歩時に公園で職員が近隣の親子と交流したことがきっかけとなり、入園につながったケースもあった。また、園見学の際には地域の保護者から育児相談や発達に関する相談を受ける機会が多かった。今後も関わりを大切にしながら、地域における子育て支援の充実を目指していきたい。</p>
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている	B	B	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している	C	C	

総合的な現状と課題

<p>・今年度は、法人理念および4本柱について職員間で振り返る時間を多く確保できたことにより、その内容が日々の保育実践へとつながる場面が多く見られ、その結果、行事や日常の保育活動においても、新しいことへ積極的にチャレンジすることができた。</p> <p>・また、園全体で子どもたちの成長を「ワクワク・ドキドキの保育」を大切にしながら、全職員(給食職員および看護職員を含め)が一体となって保育に関わることもできた。特に給食職員が積極的に保育へ参加し、野菜の栽培や生長過程を日常保育に取り入れたことで、食育がより身近で実感を伴うものとなった。</p> <p>・園見学を通じた保護者とのつながりは一定程度深まりましたが、地域の中にはまだ園への理解や関わりが十分ではない保護者も見られるため、今後は気軽に交流できる場づくりを進めていきたいと考えている。少子化が進む中においても、「選ばれる園」であり続けられるよう、さらなる工夫と発信が必要だと感じた。</p> <p>・年度末には異年齢保育(0歳児を含む)を取り入れたことで、保護者からも好意的な声が多く寄せられたことで、来年度に向けての意図が明確となり、今後の保育にどのようにつなげていくかが課題となった。</p> <p>・職員間のコミュニケーションにおいて会議だけでなく日常的な雑談の時間も大切にした。職員同士が気軽に意見を出し合える関係性が築かれ、園全体としてさまざまな取り組みについて、話し合いができてきたことで、来年度の取り組みについて検討していきたい。</p>
--

園名 ひなたの森保育園分園

氏名 荻野ゆみ